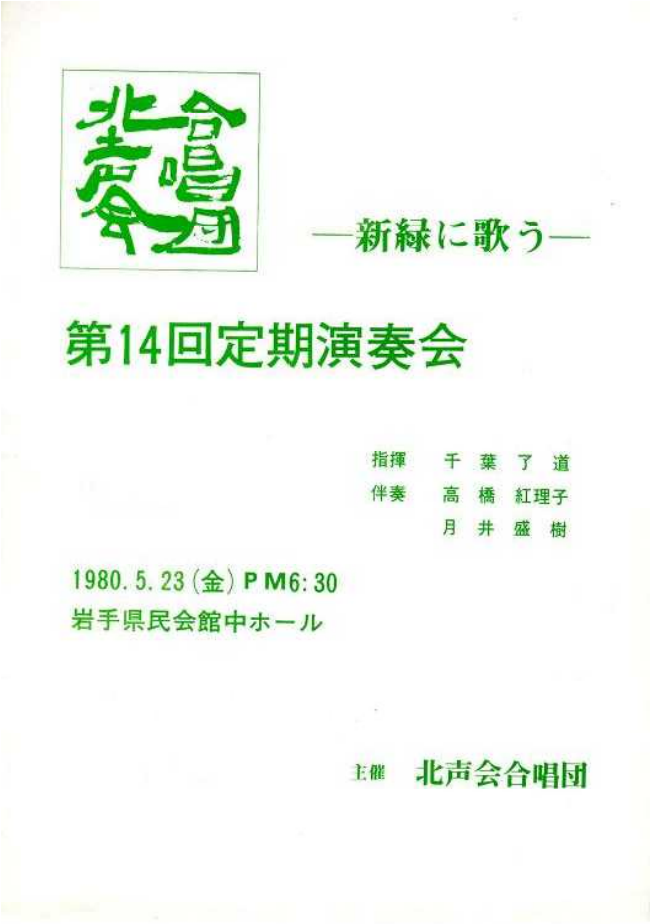
第１４回定期演奏会（昭和 55 年 1980 年 5 月 23 日(金)18:30 ～）岩手県民会館中ホール



＜プログラム＞

指揮　千葉了道
伴奏　高橋紅理子
月井盛樹

［１］ギリシャ正教歌集
天主経（主の祈り）　ﾎﾞﾙﾄﾆｱﾝｽｷｰ 作曲
悪人の謀　ﾌｧﾁｪｴﾌ 作曲
天使ヘルビムの歌　ﾎﾞﾙﾄﾆｱﾝｽｷｰ 作曲
復活祭讃詞　作曲者不明
幾年も（ﾑﾉｰｶﾞﾔﾚｰﾀ）　作曲者不明

［２］大中恩　作品集
海の若者　佐藤春夫 詩
秋の女よ　佐藤春夫 詩
花笛　北島万紀子 詩

［３］想い出の映画音楽より
編曲・伴奏 月井盛樹
エデンの東
慕情
My Way

［４］千葉了道　作品　朗読 高橋佳代子
混声合唱組曲 河童と蛙　草野心平 詩
河童と蛙
青イ花
祈りの歌
On the tree

＜団員名簿・出演者名簿＞

＜ Sop ＞
畠山房子　藤井明子
金矢妙子　駒木美和子
中村静子　小川裕子
関口章子　佐藤文子
小綿洋子　内沢祥子
千葉都　田村紀孔
佐々木みどり　高舘千枝子
菅原真弓

＜ Alt.＞
伊藤康子　寒河江怜子
大和光子　北田治子
佐藤孝子　花輪安里
鎌澤光子　亀ヶ森幸子
田村久美子　高橋和香

＜ Ten.＞
福田清　藤沢信夫
佐々木壮一　菊池康
矢作満　三浦斉
武田裕正

＜ Bas.＞
牛越恂　佐藤洸
斎藤宏　平博
照井隆一　稲垣秀悦
遠藤陽一郎

＜指揮者・ﾋﾟｱﾆｽﾄ・役員＞

常任指揮者	千葉了道
ﾋﾟｱﾉ伴奏者	高橋紅理子
委員長	牛越恂
副委員長	
会計	
ﾊﾟｰﾄﾘｰﾀﾞｰ Sop.	
Alt.	
Ten.	
Bas.	

＜主な活動＞ 昭和 55 年　1980 年

1/27(日)　新春コンサート
5/ 6(火)　盛岡市芸術祭合唱公演参加（県民会館）
5/23(金)　第 14 回定期演奏会（県民会館中ホール）
6/23(月)　ゴールドブレンドコンサート（IBC）参加（指揮石丸寛）

8/23(水)　「箏菊会」（琴の菊地社中）賛助出演

14回目のご挨拶

運営委員　佐　藤　　洸

今宵はようこそお越し下さいました。

盛岡放送合唱団から北声会と編成がえをしてからもう14年になります。

この間、地方性とか、手作りの歌とかを志向しつつ、幾たびかつまづき、きびしい批判にもさらされ、それでも耐え抜いてここまでたどりつきました。

牛越委員長を中心に、家庭的雰囲気だけは失うまいと努力もしております。

メンバーもだいぶ老令化してきましたが、あいかわらず若々しい千葉先生の指導ぶりや、学生たちの加入で、雰囲気は至って若々しく和やかです。

今回は、千葉了道先生の傑作「河童と蛙」をはじめ、昨秋、東北では初演の「ギリシャ正教聖歌」の一部再演、それに大中恩のロマンチックな作品、さらにはポピュラーものと、いろいろなジャンルにまたがった演奏です。

さて、どれだけハートや技術の切りかえをして歌い分けが出来ますやら、多少冒険とは思いますがとにかくやってみることにしました。

どうか最後までじっくりお聴きいただきまして、ご批判などいただけますなら幸いでございます。

北声会と私

指揮者　千　葉　了　道

北声会、という名は、私がつけたことになっている。本当は団員で話し合うことになったのだが、よく電車の「北星」と間違えられたり、何々一家の名称に思われたりするが、もうおなじみになっているからこのままで良いであろう。

何となく北方性という風なものがありそうに思えて命名したのであったが、北方性というのも得体が知れないし、捉々つかめないまま今日に至っている。唯、地方に生れたいわゆる風土的なものを歌ってみよう、民謡もやってみよう、そのほか色々と試みようという姿勢はとって来た。

今度の定演には、再度ギリシャ正教の聖歌を取りあげ、又団員の希望で、私の作品"河童と蛙"をやることになった。河童と蛙は、たしか三度目であろうか。何度やっても不満であった部分を徹底的にやりたい、というのが私の望みであったが、どこまで表現出来るか。どんなにやってもいい合唱にならなければ曲が悪いのであるから団員の責任や指揮者（今回は私）の責任ではない。

この頃、全く今頃になって楽曲表現の難しさを味わっている。日暮れて道遠しとはこのことであろうか。一つの旋律、一つの言葉の表現を考えただけでも、その解釈はいくつもいくつもある。然もそれが全体としてよどみなく流れていかなければならない。歌わせてみてそれから色々と考える指揮者だと言われるが、どうやら私がそのひとりであるようである。この歌は指揮者にもかかわらず、いつも黙ってついて来てくれる団員にあらためて感謝し又、ある意味では試行錯誤の果ての発表会に入場料を払って聞きに来て下さる聴衆の皆様に心から御礼を申しあげたい。